



グランパス未来商店街

企画経緯・目的：豊田スタジアム最寄りの豊田市駅周辺は商業者が多いにもかかわらず、試合時のサポーターの滞留が少ない。一方で街並みは都会的できれいな商業エリアを有するものの、店主のサラリーマン化が進み、豊田市らしさの魅力に欠け、横のつながりも希薄である。

そこでクラブが地域のハブとなり、かつて駅前にあった商店街のようなコミュニティを新たな取り組みの中でつくることを目的に、試合の有無に関わらず、商店も地域もサポーターも嬉しい、新たな共創の場となることを目指して始まった。

主体：グランパスシャレンメンバー（約20名）

協働者：地元商業者、一般社団法人TCCM（まちづくり団体）

たきつけ役：クラブ

活動場所：豊田市駅前

取組テーマ：交流人口・関係人口の増加

協働者：企業／住民／行政／グランパスシャレンメンバー

協働者名：TCCM（豊田市中心市街地活性化協議会）、
グランパスシャレンメンバー

活動で工夫した点

クラブと社会課題解決を目指したいプロボノメンバー（グランパスシャレンメンバー）が中心となり、地元のキーマンを巻き込んでメンバーを構成した。デザイン思考の手法を一部取り入れ、顧客視点に立った発想で生まれたアイデアを具現化させるために、ホームゲーム2試合を活用してインタビューを中心としたフィールドワークやプロトタイプ検証を実施し、仮説アイデアをより顧客ニーズに沿ったアイデアにブラッシュアップしていった。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

普段は一緒に活動することがない、グランパスシャレンメンバーと、行政や地元のまちづくりの担い手と一緒に、同じベクトルで取り組んでいく点が難しかったが、4回の参加型のセッションを継続していく中で、徐々に一体感を醸成していくことができた。

クラブや地域の活動後の変化

これまで、試合開催日ですら街とサポーターとの距離感があった中、セッションやプロトタイプを通してグランパスを活用したまちづくりの意義をTCCMや街の方々に賛同いただいた。また街中を利用する顧客へのアプローチとして、未来商店街を通じて「とよたまちなかLINE」を立ち上げ、今後のまちなかイベントの情報発信につなげる。



協働者の声

■豊田市中心市街地活性化協議会 中井さまの声：シャレンの活動に参加することによって、名古屋グランパスのサポーターの生の声を聞くことができました。また、昨年一緒に取り組んだ未来商店街がきっかけで、とよたまちなかライン会員の取組に至りました。

■大学生スタッフ 佐々木さまの声：クラブが私たちの身近なところで地域を支える活動をしているかを実感しました。クラブは試合で勝つことだけが重要だと思っていましたが、ホームタウンとの結びつきを大切にしたり、ファンの方々とホームタウンの両方が笑顔になれる仕組みを考え、地域へ貢献していました。今住んでいる地域の課題に目を向け、よりよい未来を創るために試行錯誤を重ねて企画を行うことはとてもやりがいのある活動だと感じました。

参加者の声

8/10は歩行者天国になったこともあり、試合前の盛り上げとしてワクワク感があつた。キックターゲットや等身大パネルでの撮影など、親子やファミリーで楽しんでいただいていた。

11/23の駅前イベントでは縁日企画でコンテンツが増えたこともあり、普段のホームゲームより約2倍の来場者があった。（駅前商業者のご意見）

活動の「ここぞ！」というPRポイント

地域とクラブ・サポーターとの長年の距離感が、プロトタイプを通してお互いの距離感を縮められる感触を得ることができた。

補足

企画を引っ張っていく存在としてグランパスシャレンメンバーを構成した。企業・行政・大学生等、多様なメンバーで構成され取り組みの企画・運用を伴走した。まちなかの中心となる団体・商業者は課題感はあるものの他の業務で手一杯だったアイデア・企画含め手法が思い浮かばない場合もあるが、それに伴走する役割がいることで課題の克服を目指した。